

kanabō hogo kanonami
更生保護

小松能美

第3号

2017年(仲秋号)

再犯防止等の推進と犯罪予防

活動について



会長 山本 敏明

地域社会の安全・安心を実現するために、犯罪や非行をした人の円滑な社会復帰を目指して、「就労支援」「住居の確保」に加えて「保健医療サービス及び福祉サービスの提供」など社会復帰支援策を推進することとなりました。

今年度も七月の「社会を明るくする運動」並びに再犯防止推進月間を中心に、「部会活動」の充実を図りながら、共生社会の実現を目指して、幼児期の生活環境の一環として、いしかわ子ども交流センター小松での「子ども交流まつり」や小松市民センターでの「キッズフェスタ」親子連れ(延べ六千人)では、飛行(非行)の出来ない更生ペンギンホグちゃん(着ぐるみ)が登場。満面の笑みで記念撮影する子ども達から大人気でした。保護司会、更生保護女性会、BBS会、そして小松工業高校インターアクト部など沢山の皆様の協力をいただき、親子で楽しいひと時を過ごすことができました。社会を明るくする運動が親子の絆を培い、楽しい思い出として記憶に残ることを期待しています。また、小松能美保護区保護司会のホームページに活動状況を公開しています。より多くの皆様のご理解とご協力をお願いします。

定期総会の開催

小松能美保護司会の平成二十九年定期総会は、五月九日午後二時三十分より小松市第一地区コミュニティセンターで来賓五名、保護司五十九名中三十六名が出席(委任状十八通)して開催され、提出議案はいずれも承認された。

平成二十八年年度収支決算は、収入総額四百三十四万八千八百八十四円、支出総額三百九十五万九千八百一十円、次年度繰越金

今年度の主な事業

- いしかわ子ども交流センター主催「子ども交流まつり」に参加、五月五日小松栗津館
- 厚労省主催「薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン」に協力、六月二十五日アビオシティ加賀店
- 市長町長議長に「総理大臣社明メッセ」の伝達(七月三日 各市町庁舎)
- JR四駅街頭キャンペーン、七月十日
- 学校との連携 地区担当の学校訪問(社明作文応募依頼 懇談 七月中)
- 北部児童センター主催「キッズフェスタ」に協賛、七月十七日小松市民センター
- 社明啓発広報車に搭乗街宣活動、七月中各市町内一円
- 県心の教育主催「グッドマナーキャンペーン」に参加、九月十三、二十日各中学校門
- 社会参加活動十月十日、清掃活動
- 視察研修十月十九日、福井刑務所
- 新任保護司研修、十一月(定例研修後)

三十八万一千八百三十三円。特徴的なことは、サポーターセンターとして隣に二部屋借りることができ、机椅子を購入して部会や更女・BBS会の会合、面接等に使えるようになったこと。社明実施委員会の新規事業枠の十六万二千円を使って、小松能美保護司会のホームページ開設と、社明運動の啓発動画を小松テレビで放映できたこと。平成二十九年年度収支予算は、収入総額三百七十九万九千円、支出総額三百七十九万九千円(内予備費十二万五千六百円)。

- 公開ケース研究会、十一月十九日南都中二年
- 新年一泊自主研修、二月八、九日おびし荘
- 定例研修、六・九・十二・三月
- 機関誌「更生保護小松能美」の発行、九月
- 三月「能美更生保護」の発行、十一月
- 県更生保護顕彰式典十一月十六日県地場産業振興センター
- 定期総会五月、定例理事会(四・六・九・十二・三月)、保護司候補者検討協議会(七・二月)、部会・支部会は随時開催

平成二十九・三十年度の役員

- 会長 山本敏明
副会長 杉本雅規、佐野良衛、元山 洋
会計 宮川信之
庶務 林 伸一、中川和信
監査 山形彰人、屋敷信弘
理事 前述の役員、由田外喜夫(能美理事)、平野俊也(広報部会長)、森本栄史(犯罪予防活動部会長)、石田直樹(協力組織部会長)、徳山知子(研修部会長)、中田毅(小松東分区長)、上村英一(小松南分区長)、南 裕子(能美会計) 計十五名

「再犯防止推進法」における地方公共団体との連携の強化について



金沢保護観察所 所長 松本 裕伸

平成二十八年十一月十四日に公布・施行された「再犯の防止等の推進に関する法律」において、地方公共団体が地域の実情に応じた推進計画を定め、再犯防止に関する対策を講ずる努力義務が初めて規定されました。これを踏まえ、保護観察所においては、矯正施設、検察庁とともに、これまで以上に地方公共団体との連携・協力を図りながら、地域における再犯防止の取組に二層努めていきます。

し進めるために、七月を「再犯防止啓発月間」に定めていることから、毎年七月を強調月間として実施している。『社会を明るくする運動』と合わせて、国民の関心と理解を深めるためにも、積極的に広報活動を展開していきます。



金沢保護観察所 主任保護観察官 辻 健一

保護司の皆様には、保護観察対象者等への対応、犯罪や非行の防止と罪を犯した人の更生について理解を深めるための広報活動、地域での犯罪予防活動等、幅広い活動をしていただき感謝申し上げます。再犯者率(検挙人員に占める再犯者の割合)は年々増加し、平成二十七年には四十八%となっております。再犯防止は地域においても大きな課題です。犯罪をした者等が、社会に

おいて孤立することなく、再び社会を構成する一員となり、社会に復帰することができるよう、地方公共団体や福祉関係者、民間協力者等と連携協力し、再犯防止施策を推進することが必要です。また、保護観察所では、対象者を雇用してくださる事業主(協力雇用主)を募っています。再犯防止のため、地域の皆様の御理解と御協力を願っています。

第40回 有名作家チャリティ作品展

社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリティ作品展が金沢市「めいけつエムザギャラリー」で七月七日〜十二日に開催されました。

本運動の趣旨にご賛同いただいた地元作家のご協力を得て、作品はご来場者の皆様方の入札により、売上金は罪を犯した人々の更生援助や犯罪予防活動に役立てられます。

期間中、県内有名作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、熱心に見入る来場者でいっぱいでした。お世話いただきました保護司有志の方々、ご寄付された地元作家の皆様方には、厚くお礼申し上げます。

〔寄贈された方々〕(敬称略)

- ◇工芸の部 打田 幸生・三ツ井為吉・浅蔵五十吉・新藤 晋・浮田 健剛
- ◇絵画の部 山中 国盛・高 権成・北村 鶴代・下道 良平・中田 一於
- 吉田 美統・北村 隆・長谷川紀代・田村 敬星・徳田八十吉
- 村中 曉美・北村 英昭・糠川 孝之・米田 和・野村 大仙
- 山岸 大成
- 藤田 弘・田方 勇・北 長八・和泉 洸・東 孝太郎
- 後出 秀茂・池岡 信・松村 芳明・西房 浩二・斉藤 敏明
- ◇書の部 都賀田久馬・相神 眉鶴・福田 樹峰



静かな微笑み 陶芸作家 山岸 大成

八年前尊敬する漆芸家を奥能登に尋ねた。それまでも何度か伺ったことがあったが、いつも連絡をせずに行くのが常で、その厳しい仕事ぶりから、手を止めて頂くのが憚られ用件だけで済ませていた。しかしその時は丁度制作を終えられたあとのように仕事場まで招き入れられ、奥様を交えてゆつくりといろんなお話を聞かせて頂いた。

「山岸さん。あなたの前に道がある、目標が見える緩やかな易しい道、先が見えない曲がりくねった険しい道。さあ、どうされますか。」

返答に困っていると「私はね、いつも厳しい道ばかり選んできた様な気がします。」と話され、「それが正しかったんでしょね」と問い返すと「いや、どうかは分かりません。でも九十になるこの年まで続けてこられたのだから、間違ってもいなかっただけでしょね」と、深い皺の中で静かに微笑まれた。かけがえのない大切な言葉を残して、この夏先生は旅立たれた。

7月は社明運動強調月間

*** 社明運動伝達式・出発式 ***

法務省主催第六十七回「社会を明るくする運動」は、「もどらないもどさない」をスローガンに、犯罪や非行の防止と、過ちを犯した

人の立ち直りを地域のチカラで支えていこうという運動である。スタートの三日午前、小松支部では、保護司会役員と更女会長が市役所を訪問し、総理大臣メッセー



広報車出発式



メッセージ伝達式



長と梅田議長に伝達した。その後、市庁舎前で社明啓発広報車の出発

*** JR四駅前街頭キャンペーン ***

七月十日朝七時より八時まで、JR粟津・小松・明峰・能美根上の四駅で、小松能美保護司会二十六名、更生保護女性会十四名、BBS会一名が参加して、社明運動のキャンペーンを実施した。幸せの黄色い羽根を付け、のぼり旗を持ち、

いるが、急ぎ足で硬い表情のまま通り過ぎる人も多い。八時前に予定数がなくなり無事終了した。今年で三年目になるが「継続は力なり」で今後も続けていきたい。

「おはようございます」社会を明るくする運動です」と積極的に声をかけて手渡した。乗降客の多い時間帯であり、高校生も多く利用しているの



式をし、山本会長の挨拶の後、月の前半と後半の三日間、保護司と更女で市内の街宣活動に回った。能美支部では、保護司と更女で午前中に井出市長と前町長にメッセージを伝達し、その後保護司と更女役員が市と町それぞれの広報車に分乗して、社明運動の街宣

活動をした。夕方には、四地区の公共施設前で啓発ティッシュを配った。期間中、防災無線での呼びかけ、テレビ小松での啓発、ポスター掲示、広報誌への掲載など、広く市民に訴えた。小中学校と寺井高校を訪問し、学校長と情報交換ができた。

第一期定期研修

「無職対象者への就労支援について」

平成二十九年六月一日(木)十三時三十分から小松市第一地区コミュニティセンターで、第一期地域別定期研修が行われました。今回は、「無職対象者への就労支援について」というテーマで、金沢保護観察所辻主任官に講義をしていただきました。

就労奨励金の内容や支給額は様々ですが、無職状態が続く対象者については、主任官と相談し、協力雇用主の活用や、就労支援メニューを活用することで、雇用につながるようしていきたいと思っております。

無職者の再犯率は、有職者に比べ非常に高いことから、対象者の就労支援は非常に大切です。今までは協力雇用主に対する助成制度が充実していなかったのですが、全国の協力雇用主の地道な取り組みが注目されるようになり、平成二十七年四月より就労奨励金制度が創設されました。この制度には、対象者を雇用している協力雇用主の様々な困難に対して、その部分を手当てするといふ意味合いがあります。対象事業主は、協力雇用主とし

て登録されていて、就労状況を保護観察所に報告することが義務付けられています。以上、主任官の講義をお聞きした後、小グループに分かれてグループ討議し、最後に主任官の総評で定期研修は終了しました。



各部会報告

総務部会



元山 洋

「やって良かった」「楽しくて元気が出た」の声があふれるよう昨年度着実に前進させた活動の成果を生かし、活動意義・内容の共通理解を進め、活動に参加できるように部会、理事会の中で意思疎通を十分図っていききたい。

今後も保護区全体にかかわる事業、各部会との連絡調整・支援並びに各支部へのサポート、適正かつ効果的な予算の執行、県連合会・金沢保護観察所・更生保護団体等との連携を計画的、組織的にきめ細かく行なっていきます。ご協力をお願いいたします。

研修部会



徳山 知子

今年度の研修部会としては、十月十九日に福井刑務所への視察研修を予定しています。久しぶりの刑務所視察であり、実りある視察研修となるようこれから計画していきます。

一月の一泊研修では講師として粟津神経サナトリウムの秋山典子先生にお越しいただく予定で、参考になるお話を聞かせていただけると楽しみにしています。

また、新任保護司研修についてはその都度、テーマ別研修については、今年度は「発達障害」を取り上げていきたいと現在計画中です。

定例研修の出席率は、引き続き声掛けをすることで出席率を高めていきたいと思います。

今年度の研修部会は、積極的な女性が多く女性パワーで皆様に喜んでいただける研修部会にしていきたいと思います。

犯罪予防活動部会



森本 栄史

今年度は、五月五日に、いしかわ子ども交流センター小松館で開催された「子ども交流まつり」

で杜明チラシの配布、ホゴちゃんのお絵描きと竹ぶんぶんごま作りを初めて実施しました。七月には、社会を明るくする運動総理大臣メッセージ伝達式、杜明街宣活動、小中学校への作文コンテスト応募の依頼、ポスター配布や学校との懇談会。

十日には、JR四駅で街頭キャンペーンを実施しました。十七日海の日には小松市民センターで開催された「キッズフェスタ2017」に参加しました。今後は、九月にはグッドマナーキャンペーン協賛、十一月には、小松市立南都中学校でケース研究会(犯罪予防教室)を予定しています。

協力組織部会



石田 直樹

六月一日に今年度事業計画について、部会を開き、社会貢献活動を効果的に行う対象者が、社会の役に立つ体験を通じて、人の役に立てるといふ感情を育む、ルールを守る意識を育む、さらに処遇効果を深めるために、複数回実施する事などを確認しました。

社会貢献活動義務化の対象者を受けた時に部会を開き、適切な活動場所、作業内容を作成していく事にしました。それまでは、実施場所の確保と開拓を考えていきたいと思います。

広報部会



平野 俊也

「更生保護小松能美」も二年目を迎え、部員、十二名でスタート。広報は保護司会の会報であるとともに、保護司会の歩みの記録でもある。そのことを念頭に入れ、二回の部会で意見を交わし、役員の方の意向も聞き、第三号の編集に入った(九月末発刊)。今回の基本ベースは第一号の編集を参考に方針を確立。原稿依頼にも協力があがり感謝。三号発刊を踏まえ、四号に向け部会で編集方針を検討し、よりよい広報発刊を目指したい。

子ども交流まつり

2017 5/5

いしかわ子ども交流センター小松館

今年度、五月五日にいしかわ子ども交流センター小松館で開催された「子ども交流まつり」に保護司会としても初めて参加しました。例年小松市民センターで開催されている「キッズフェスタ」の内容と同様に、おえかきホゴちゃん(更生保護のマスコットキャラクター)コーナーを設け、子ども達に思い思いのホゴちゃんを描いてもらいました。(描かれた絵の一部は小松能美保護区保護司会のホームページで紹介されています)

また、絵を描いたお子さんには、竹ぶんぶんごまをプレゼントし、それぞれのコまにも思い思いの模様を描き、こまを回して楽しめました。初めはなかなか上手にできませんでしたが、すぐに上手に回せるようになりました。子ども達がお絵描きをしている間に、子ども達の保護者には、社会を明るくする運動のチラシ、ホゴちゃんファイルシール、ティッシュやボールペンを配布し、更生保護活動などについて説明もしたりしました。

当日は好天気に恵まれ、約二百名の子どもたちが参加してくれました。保護司の方方も十一名参加しました。参加してくれた皆様方ありがとうございました。

キッズフェスタ2017

2017 7/17

小松市民センター

七月十七日十時から小松市民センターで開催された北部児童センター主催「キッズフェスタ」に、各種団体と共に小松能美保護司会十七名、更女四名も参加した。

当日は、来場者にエコティッシュと杜明チラシとホゴちゃんお絵描き用紙をクリアファイルに入れて手渡した。また親子で楽しめるように、竹でぶんぶんゴマやブー笛を手作りしてもらった。今年若者に入ってもらった「ホゴちゃんの着ぐるみ」も登場し、次世代を担う子どもたちと触れ合った。

コーナーには親子連れが訪れ、ホゴちゃんマンガの見本を見ながら、クレヨンやマジックで描いていた。「何でペンギンなの」と聞かれ、保護司会活動を説明する機会となった。

三時までにクリアファイル等三百枚を配布し、ホゴちゃんの似顔絵七十八枚が集まった。また、百六十個の竹ぶんぶんゴマやブー笛を作って、親子で楽しんでいった。



支部だより

能美支部だより

更生保護関係者犯罪予防研修会、意見交換会を開催する

「社会を明るくする運動」の一環として七月二十五日、能美支部の保護司と更生保護女性会、BBSの関係者二十七名が参加して、犯罪予防に関する研修会を辰口福祉会館で開催しました。最初に講師としてお願いしました寺井警察署刑事課兼生活安全課の山田課長から、管内の犯罪状況、最近の少年の犯罪行動など分かりやすく講義をしていただきました。

最近では犯罪件数が減少しているものの、「青少年の間では、ネットによる広域的なつながりができ、相手の状況を認識しないままにつながりを持ち、非行につながったり、犯罪に巻き込まれたりする。また、高齢者の犯罪が増加しているとともに、高齢者が被害者になる振込み詐欺や、直接現金を渡してしまう詐欺など巧妙さが際立ち、被害も拡大している。」とのことで、近所同士の声かけ、日ごろのコミュニケーションの大切さ、そして、身近に迫る薬物犯罪などの現状を聞く事ができました。

講演会の後、関係者による意見交換会で地区ごとの学校訪問の状況を代表者が報告し、その後、テーブルを囲んで、更生保護活動、更生保護の難しさなど、日ごろの悩みや問題点などを話し合いました。

恒例となった座談会は、保護司、更生保護女性会員、BBS会員との交流を深める場となり、犯罪の抑制、立ち直りの手助けなど同じ目的をもって活動する団体としての連携を確認することができました。



小松支部だより

県の心の教育推進協議会主催「グッドマナーキャンペーン」に小松支部も参加している。今年九月十三日～二十日の間、市内の中学校の校門で学校側・各種団体といっしょに挨拶運動・交通指導を行った。朝の七時三十分から八時まで各中学校の校門に立ち、「おはようございます」「今日も元氣か」と呼び掛けた。子どもたちの心は、表情になって現れる。学校や他の団体との情報交換にもなり、貴重な時間となっている。

更生保護女性会・BBS会の活動報告

小松地区更生保護女性会

会長 中谷 純子

八月五日金沢観察所長松本裕伸様にもご参加を頂き獄死者の墓地清掃を実施しました。きれいになったお墓で心静かに亡き人の霊を思い、読経に手を合わせる時の清々しい幸せな思いは何だろうと自分の心に問いかける一時でもあります。また小松地区更女発足以来年四回の徳風苑でのおかず作りも喜びのお礼状を手に参加者からこうした機会を得て良かったとの声を聞くことができました。これからも継続事業と共に微力ですが新たな事業の掘り起こしや会員の増員等にも取り組んで行ければと思っております。保護司会や関係者の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

能美地区更生保護女性会

会長 南 美紀子



石川県更生保護女性連盟では、湖南学院(少年院)での新入時講話を実施しています。平成二十六年から湖南学院の要請を受け、湖南学院に入院したばかりの少年たちに、人生の先輩としてのアドバイス

小松能美地区BBS会

会長 山形 友希

や励ましの語りかけをしています。少年たちの中には、虐待やネグレストの経験者も少なくなく、院に入ったことで、不満や不安を抱えている子たちもいます。能美地区は一月に講話に行つて来ました。四人の更女会員で行き、その日の院生は五人でした。私の話の後、生け花をいっしょにしようと、花や道具を持って行きました。

小松能美地区BBS会は平素、健全育成事業を中心に行っております。その中のキッズフェスタについてご紹介致します。キッズフェスタという、北部児童センターのお祭りに協力しているのですが、今年度は日本BBS連盟のモデル事業として、石川県BBS連盟全体が協力して行いました。金沢・金城大学BBSもブースを持ち、多くの子ども達が楽しめる活動も考えて頂きました。子ども達が地域の中で見守られて育つ、そんな活動を今後大切にして行きたいと思っております。



教育現場からの声

南部地区の健全育成



小松市立南部中学校 校長 室山 勝信

南部地区は一つの中学校と六つの小学校からなる小松市でも最も大きな校区です。小中連携では「なんぶっ子三か条・あいさつ・思いやり・自ら進んで」を合い言葉に九年間の指導の連続性を図るとともに、共通の「家庭学習のてびき」を作成して学力向上にも取り組んでいます。

また、南部地区の健全育成と言えは欠かすことが出来ないものとして南部地区青少年健全育成協議会の活動

があります。今年三十八年目を迎える本協議会は、全国的に学校現場が荒れていた頃に、南部の子どもたちを地域の力で育てていこうと結成されたものであり、善行表彰や標語、作文、川柳の募集、夏休み期間の巡回指導、声かけ運動など長年にわたり実践されてきました。県下に数ある健全育成協議会の中でも最も熱心に活動が展開されています。

南部中学校では今年度、小松能美保護司会さんのご協力を得て「公開ケース研究会」を開催する予定です。非

行のみならず「いじめ」や「ネット・トラブル」など現在の生徒たちが抱える問題について共に考えていきたいと思っています。

●薬物乱用防止キャンペーン●

「ダメ。ゼッタイ。」 6・26ヤング街頭キャンペーン

六月二十五日、アビオシティ加賀店にてヤング街頭キャンペーンが午前十時三十分より行われました。保護司会、更生保護女性会、薬剤師会、ボーイスカウトの方々等約百名の参加にてアビオシティ加賀店の出入り口六か所に分散して、普及啓発資材(リーフレット・ポケットティッシュ等)の配布と街頭募金、「薬物の乱用をなくしましょう!」の呼びかけを行いました。今日、薬物乱用問題は全世界的な広がりを見せ、人類の抱える最も深刻な社会問題の一つです。薬物乱用者の低年齢化が懸念されることや、危険ドラッグの使用による健康被害や事件が多発しています。「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を官民一体となって展開し薬物乱用防止に努めようではありませんか。



新任保護司の抱負



保護司 井上 和代

小松能美保護司の杉本先生の推薦を受け、今年六月より拝命する事となりました。

私は二十一才から洋画家として活動させていただき、六年前に「八十山雅子・和代美術館」の代表として画業に励んでいます。当館には大人に交じって小中学生が数多く遊びに来ます。宿題したり友達同志で会話を楽しんだり思い思いに過ごしています。中には不登校の少年が数人います。一人で当館に寄り

悩みを打ち明けてくれます。ほとんどが家庭環境や友人とのトラブルの悩みが多いです。六月に研修を受けたばかりでまだまだ勉強中ですが、子供達の内面にある深い部分を見抜く洞察力や寛容な心や包容力を持つて接していこうと強く感じています。

先輩保護司の皆様にご教えを頂きながら地域社会のお役に立てるよう精進してまいりますので何卒よろしくお願致します。

編集後記

お盆過ぎ、仕事が転々としていた青年が母親とともにわが家に来て、嬉しそうに顔で一枚の小さな紙を出しました。受け取ってみると本人の氏名と七月給料明細書でした。思わず「ヤッター!」と、ともに大声で手を握り合いました。初めて続いた方月の本人の努力と辛抱の結果でした。

広報三号が皆さま方のご協力により、発行することができ、感謝しています。次号に向け、部員一同幅広く多くの方々の活動や声をいただけたらと思います。よろしくお願致します。

発行日 平成二十九年九月二十日
発行 小松能美保護区保護司会
印刷 マルト株式会社

小松能美保護区保護観察件数等/8月度の増減比較表

Table with 5 columns: 種別, 1号, 2号, 3号, 4号, 環境調整. Rows include平成29年, 平成28年, and 増減.

(保護観察官 辻 健一)

最近の保護観察件数等の動向

成人事件の変動は少なく、少年事件は減少している。高齢者、生活困窮者、精神面の問題を抱えた対象者がいるため、引き続き関係機関等との連携が必要。